

平成22年8月25日

## 中西部太平洋のカツオ資源の減少？ 早急にまき網漁獲能力の抑制を

OPRTは、日本近海のカツオの漁獲減少を懸念する会員の声に応じて、マグロ資源科学者の鈴木治郎氏（元遠洋水産研究所浮魚資源部長）に意見を求めた。

これに対し、別添のとおり最新の研究状況に基づく意見をいただいた。

OPRTは、WCPFC海域におけるまき網漁船の漁獲能力を早急に抑制する必要性について一般の理解を深めていただくために、鈴木氏の諒解を得て公表することとした。

（参考：水産庁は、7月、ブリスベンで開催されたマグロ地域漁業管理機関の合同作業部会で、中西部太平洋でまき網漁船の2割減船を提案したが、鈴木氏の意見は、この提案を科学的にサポートするものとも言えよう。）

（問合せ先）

（社）責任あるまぐろ漁業推進機構  
事務局長：田端 事業部長：人見  
TEL：03-3568-6388  
FAX：03-3568-6389

## 中西部太平洋のカツオ資源の減少？ 早急にまき網漁獲能力の抑制を

鈴木治郎（元遠洋水産研究所浮魚資源部長）

資源状態が良いと言われているカツオ資源といえども、そろそろ限界にきているのではないかと懸念している。世界のカツオ・マグロ類の生産の60%近くを占める中西部太平洋海域（以下 WCPFC 海域）におけるカツオ資源に黄色信号が灯るかもしれない。近年、日本周辺のカツオ資源が減少していると懸念する声が漁業者等から高まっている。この原因は南方熱帯域で、巻き網漁船が日本に回遊してくるカツオを川上で大量に漁獲するので、日本近海への来遊資源が、減ってきているのではないかという見方に繋がっている。日本近海と熱帯海域間のカツオの回遊は不明な点が多いが、近年の巻き網によるカツオの漁獲は、FAD（浮き漁礁を使った漁獲方法で、極めて効率的にカツオ・キハダ・メバチの未成魚を漁獲できる）の利用も進み150-170万トン/年に達しており、漁業者だけでなく研究者・行政官も、日本近海を含むWCPFC海域のカツオ資源の先行きに関する不安を募らせている。

黄色信号は、今年行われたSPC（南太平洋委員会—WCPFC海域のカツオ・マグロ類の資源評価を委託されている国際機関）と遠洋水産研究所との共同研究から出ている。この研究はまだ予備的な段階であり、今後修正されるかもしれないので、最終的な結論を出すには、今終わったところであるWCPFC海域で行われたマグロ・カツオの大規模標識放流の分析結果を待つ必要がある。

この研究の概要は次のとおりである。カツオの資源評価には、通常使われる漁業を通して得られる資源量指数（CPUE、例えば延縄だと釣獲率）が使えない。なぜならば、カツオを狙って操業する主な漁法は、巻き網と竿釣りであるが、これらの漁業から得られるCPUE（例えば、操業一日当たりの漁獲量）を計算しても、経年的に増加傾向を示すだけである。つまり、漁獲能力がどんどん向上して、見掛け上CPUEが上昇しているので、資源状態に関する正しい情報を与えない。巻き網であれば、FAD、ソナー、鳥レーダーの使用等で、漁獲能力は格段に上昇しているので、たとえ資源量が減少しても、その減少が感知できない可能性が高い。竿釣りにしても、似たようなものである。

この共同研究では、竿釣りの詳しい操業記録の解析を行った。つまり、漁業機器の装備の有無に加えて、船別に詳しくCPUEが計算された。竿釣り船の数は減少しているが、優れた船頭と乗組員のいる漁獲の成績がいい船は、最後まで生き残る可能性が高い。そうすると、最近では、これらの優秀船のCPUEばかりを計算することになりがちなので、資源の減少を見落とすことになる。そこで、平均的な漁獲をあげる普通の漁船が従来と同じ漁獲能力で操業したら、現在のCPUEはどれだけ低くなっているのかを計算して、漁獲能力の上昇によりもたらされたCPUEの上昇要素を取り除く試みを行った。このように補正したCPUEは、海域によっても異なるが、10年ほど前と比べると、おおむね25%近くもの減少を示しているようである。

8月に開催されたWCPFCの科学委員会でのカツオの資源評価には、この補正したCPUEが他の情報とともに使われた。その結果、これまでの楽観的な資源状態とかなり変わって、資源状態は、健全であるが、これ以上のカツオの漁獲増加には慎重であるべきと言う結果となった。推定されたWCPFC海域全体のMSY(最大持続生産)は140-180万トンで、現在の漁獲と近い。最近のカツオの漁獲は、カツオの発生量(加入量)が増加傾向にあることで支えられているが、発生量が平均の水準に戻れば、MSYを超える(乱獲)ことになるだろう。WCPFCの資源管理目標は、MSYを達成することと規定されているが、MSYは目標値ではなく、限界値(乱獲になるので超えてはならない値)とみなすべきと言う考え方が強くなってきている。

これまでの世界のマグロ資源管理委員会を見ると、常に規制の導入は、資源状況がMSYを超えてから遅ればせながらなされてきた。WCPFC海域では、漁獲量の8割近くを占める巻き網漁業が主力で、すでにメバチ・キハダに規制が導入されているが、カツオの規制は無い。カツオはこの海域の最後の命綱であるから、資源の管理には念には念を入れて、予防的措置を講じるべきであろう。WCPFC海域でカツオの漁獲規制を早めに導入することができれば、マグロの資源管理史上画期的なことにもなるわけである。最新の資源評価の結果は終了したばかりの大規模標識放流の解析も加えて総合判断する必要があり、今後修正されるかもしれない。しかしながら、巻き網の漁獲能力が増加を続けるなか、前述の補正CPUEの指数は重要な警告ととらえるべきであり、特に巻き網の過剰漁獲能力の削減・コントロールは、世界的規模で、即時に実行する必要があるだろう。